

令和5年度 第4回多摩市総合計画審議会会議録（要点録）

■開催日時 令和5年6月20日（火） 午後7時～午後9時

■開催場所 多摩市役所3階 301会議室

■出席委員 15名（50音順）

朝日 ちさと会長、宮本 太郎副会長、有賀 敏典委員、岩佐 玲子委員、小笠原 廣樹委員、
尾中 信夫委員、勝田 淳二委員、紀 初子委員、澤登 早苗委員、高木 康裕委員、
春田 祐子委員、福井 博文委員、細野 佳苗委員、田中 和則委員、鷲尾 和彦委員

■欠席委員 0名（50音順）

■事務局

阿部市長、鈴木企画政策部長、小形企画課長、秋葉企画調整担当主査、
池田主任、上川主任

■傍聴者 1名

■議事日程

開会

- 1 前回要点録の確認
- 2 多摩市総合計画市民ワークショップの報告について
- 3 第六次多摩市総合計画の施策ページについて
- 4 その他

閉会

【開会】

出席委員数は15名であり、定足数に達しているため審議会は成立した。

【1 前回要点録の確認】

前回要点録（資料61）の確認を行い、修正等なく了承された。

【2 多摩市総合計画市民ワークショップの報告について】

事務局より、基本構想（素案）の市民説明会の開催結果について報告。

事務局より資料62について説明。

- 委員 参加者の男女比、年代について傾向はあるか。
- 事務局 男女バランスよく、40代を中心に幅広い年代の市民に参加いただいた。
- 会長 グラフィックレコードの効果はどうだったか。
- 事務局 わがまち学習講座ではこの手法を用いたことがあり、その縁もあり市民の方に協力いただいた。効果としては発表内容が目に見える形で残り満足感につながったことや、他グループの内容が可視化され理解しやすかった点等があげられる。また、聖蹟桜ヶ丘、永山、多摩センターの三か所で実施し、2回目以降では前回の内容を掲示したため、地域差や同分野の違った見方も確認でき、有効な取組みだった。
- 副会長 参加人数はあまり多くなかったとの話だが、3,000人を無作為抽出したのではないか。
- 事務局 参加人数が少なかったのは基本構想（素案）の説明会であり、ワークショップには70名ほど参加した。大体2～3%の参加率となり、少なくない方に参加いただいた。今回は、前回参加者等からも希望者を募った。
- 副会長 くじ引き民主主義（無作為抽出）での市民の声は、代表制民主主義での議論より大事なのではないかという見方が強くなっている。事例としてアイスランドや武蔵野市が知られているが、より多く出席いただくためにどのように政策課題に反映するか、打ち出し方も重要である。声をどう反映させるかについてどう考えるか。
- 事務局 コロナ禍以前も市ではこのような方法をとっていた。いかに声を収集するかについて、今回のワークショップでの個々の具体的な要望を計画書に取り込むことは難しいところがあるが、庁内で共有し、毎年の事業の中で反映できるものはしていく。
- 委員 グラフィックレコードは市民が見られるように公表するのか。
- 事務局 総合計画への掲載を予定している。実物については用紙サイズが大きいですが、どこかで掲示できれば良いと考えている。
- 委員 市民がワークショップで課題認識を出しているが、どのようにインプットされたのか。
- 事務局 ワorkshop開始時に、多摩市全体の状況や当日の4分野のテーマに対して市で行っている代表的な取組みについて紹介した。
- 委員 都市づくりや住宅についての意見が多く出されているが、参加年齢層を鑑みると、健康・介護や子育て、環境などにより関心があると思われるので、課題抽出に違和感がある。

事務局　今回はあらかじめ参加者が希望したグループに分かれてワークショップを実施したためこの結果になったと考える。

【3 第六次多摩市総合計画の施策ページについて】

事務局より施策の位置づけ、施策ページの考え方について説明。

事務局より資料 63 について説明。

○子ども分野（施策 1～4）

副会長　施策の方向性にあげられている項目について、例えば施策 2 の「子育て家庭への支援」に入っている「持続可能な魅力ある保育サービスの提供」はどちらかというと子ども自身の視点が重要と思われるため、子ども支援ではないか。逆に施策 1 の「子育てのための支援」に入っている「子育てひろば」に関する記載は、施策 2 に移した方が良いのではないか。

また、児童相談所との連携について、要対協（要保護児童対策地域協議会）と児童相談所の関係、市と児童相談所の連携を、どのようにパターン化していくかは非常に重要だと認識している。そこを少し具体的に書けると良い。

事務局　保育の質、子育てひろば、虐待防止の児相との連携、いずれの指摘ももっともであり、担当課と連携したい。

委員　数値目標は、施策 1 では子育てひろば利用者数、施策 2 では放課後子ども教室参加者数、施策 3 では児童館登録児童数の割合、施策 4 では子ども食堂の数となっている。施策 4 の「子ども食堂の数」は施設数が増えること、他 3 つはその施設の利用率が指標となっているが、施設数という視点で書いたほうがよいと考える。例えば施策 1 では「パルテノン多摩こどもひろば OLIVE が加わり 10 か所になった」とあるが、目標値を 76,000 人から 90,000 人に増やす、とするより 10 か所を 1.5 倍にするなど、とするほうが市民にとってわかりやすいのではないか。

事務局　施設の整備は重要である一方、施設数はニーズ調査などを行ったうえで個別計画において進めるため、整合をとることは性格上難しい。

会長　基本計画では、どれくらい市民にサービスが届いたかが大切で、利用量の話は個別計画で触れれば良い。

また、指標の目標を「何人」とするのはいかがなものか。ニーズ、ターゲットがどれくらいあるのか、それを一緒に考えていかないと具体的な改善につながらない。割合で示すことで次につながる情報になると思っている。個別計画との兼ね合いがあるのかもしれないが「改善されている」「ニーズが満たされている」などが分かるようにしていくと良いのではないか。

委員　ニーズが分からなければ数字に意味がないという意見に賛成である。例えば施策 2 の指標「放課後子ども教室参加者数 3,582 人」はニーズに対して多いのか少ないのかわからない。

それとは別にもう一点、それぞれの施策がすべて組み合わせられるとどうなるかが見えない。以前小中学生が育つうえで授業以外の時間の過ごし方が重要との議論をした。そ

れぞれの子どもに合わせてどのような取組みがあるか、具体的なまちのイメージが浮かぶような施策の関係性、総合性、全体像が分かるようなものがあり、将来につながればいいのではないかと思う。

事務局 総合計画で記載するかは別としてサービスの選択肢を示すことは重要と考える。現状保護者に対してはダイジェストの案内を作成しているものもある。

会長 例えば基本計画をマンガにするケースもあり、サービスを使う側に対する示し方は変わってきていると思う。

委員 施策それぞれは素晴らしいと思うが、この施策を支える人の問題があると思う。子どものケアができるなど専門性の高い人材の供給・雇用についてここで語るべきか。

事務局 担い手が市の職員の場合は、行財政運営の人材育成の部分で整理している。子ども分野において市民や民間事業者に対しては、市の取組みとして人材育成を進めており、裾野を広げた後の活躍の場が課題と考えている。一方で、事業者については、お金を出しても供給が難しいこともあり、人手不足が課題となっている事実はある。

委員 今後実効性の問題が出てくるのであれば、どこかで課題として認識する必要がある。
会長 各施策では供給については述べないが、どのように限られた財源の中でやっていくか等は行財政運営において言及することになる。今回のフェーズではこの部分が相当問題になってくるという実態があり、どのような形で示していくか検討してはいかがか。

委員 それぞれの施策は素晴らしいと思うが、審議会で施策をどのように議論しまとめていくかイメージができない。市民が見たときに、現状に対して何が課題で何をするか、全体像としてどうなのかが分かりづらいのではないか。

委員 前回までの議論では、支え合いや他者との関係が基調になっていたもので、その中で施策として子育てをどう捉えるのかという流れなら分かるが、今回の構成では全体像が見えない。

会長 今回から個別の施策についての議論となり、政策、施策に落とし込む段階になる。

委員 施策4の「子ども・若者が自分らしく成長する」を最初に移し、育つ場としての家庭、それを含む地域としてはどうなのか、あるいは子どもの成長が妨げられる可能性を持っている人たちはどうするのか、などという流れにしてはどうか。

事務局 2委員からのご指摘は、目指すまちの姿を表題と文章で示し、それを施策に落とし込んでいく間の交通整理ができていないということだと思う。第五次多摩市総合計画では、政策ごとに現状と課題があり、施策とのつなぎ目の役割を果たしていた。今回はその部分がないので政策から施策へ広がりが大きくなっている。

会長 2委員と同様、構造や施策同士の関係についてのストーリーが必要と感じている。政策共通の現状や課題について示し、それに対して施策がどのように貢献しうるのかという部分があってもよいかもしれない。

委員 構想のまとめでは、人と人の関係性への配慮を重視していた。本日参加した別の会議では、協働から協創していく（Co-Production から Co-Creation）チームとして、縦割りではなく地域、コミュニティ単位を見ていくとの話があった。協働は行政の活動に市民が参加することであるが、協創は課題解決だけではなく、目的を超えて何かが生まれたときにはじめて Creation となる。基本構想ではつながる、支える、認め合うことを

大切にするとあり、そのうえで基本計画の「子ども・若者が自分らしく」とはどういうことかを書いたほうがよい。施策の目指す姿があり、それについてどういう課題があるかという話を各分野でしていくとよいのではないか。

事務局 基本構想の目指すまちの姿で、子どもの分野は大きく3つに分かれている。1つ目は子ども自身の権利や成長過程について、2つ目は保護者や地域みんながともによろこびながら支え合う子育てについて、3つ目は学校・家庭・地域社会の連携・協働となっている。施策ごとの「現状と課題」のボリュームもあり、構想の目指すまちの姿が施策に直接対応していないため、つながりが理解しにくい原因となっていると思われる。将来的に目指すまちの姿を受けて政策ごとの施策体系になっていることが見えるようにすることで、ご意見に対応していく。

委員 今回から基本計画の施策・事業に関する話であり、計画が目指す目的とそれを達成するための施策・事業の関係がわかるように工夫をしていただきたい。

会長 基本計画では事業によって実現することが施策として書かれる。基本計画の下に部門別計画があり、そこに事業がぶら下がっているのので、部門別計画の内容も見る必要があるというご意見をいただいた。

事務局 複数の分野にまたがる事業もあるため整理が難しいところがある。

副会長 今の計画の特徴はコラムの部分であり、多摩市はかなりの部分に取り組んでいると感じる。そこをアウトプットすることで市民をエンカレッジできると思う。また少子化対策についての記載はないようだが、地域の中で解決できる部分もあると思う。

事務局 少子化対策の部分は重点テーマで対応する。重点テーマ3の「活力・にぎわい」はまち・ひと・しごと創生総合戦略、今で言うデジタル田園都市国家構想総合戦略を意識したつくりになっており、少子化の部分も入ってくる。子育て支援の環境整備はこれまでもやってきているが、これからも幅広い分野で取り組むため、重点テーマで取り扱っていく。子どもの計画は令和7年に改訂を予定しており、そちらに少子化対策も含める可能性もあるので必要に応じ相互アップデートを行う。

副会長 市民の中で活躍できる人口を増やすことが目的であり、それは子どもの数を含めてであるという整理が良いと思う。

○学校教育分野（施策 5～8）

事務局より資料 63 について説明。

委員 施策の順番について、他者との関係、支え合い、地域の中で学ぶことやグローバルなレベルでの環境の考え方などを重視した担い手の育成、新しい形の主体をつくっていくことに関する施策を前に置いた方がよい。学力についての施策が最初にあるのは違和感がある。教育については、描くイメージに対してアップデートされていないと感じる。

会長 施策は部門別計画の構成に沿った形で順番に並んでいる。目指すべきゴールとして上に都市像があるので、それに応じた構成にしていく。例えば部門別計画にはミッションがあるのでこの順番には意味があると思うが、基本計画では基本計画のあり方があるの

ではないかという意見をいただいた。順番は全体としての目標に合わせていくというメッセージになる。

事務局 部門別・個別計画の順番は、基本計画と必ずしもイコールの必要はない。

会長 個々の施策について中身の議論があるかもしれないが、時間の都合により全体の意見をいただいたところで一旦ペンディングとさせていただきます。

本日は政策・施策の議論が初めてだったため、構成について大事なご意見をいただきました。ご意見は今後の進め方の参考にする。

【4 その他】

事務局より資料 60 の今後の日程について説明。

事務局 次回は7月13日19時、市役所4階401会議室で開催する。

会長 これにて第4回審議会を閉会する。

【閉会】

以上